

# 就活女子、働くママ修業

## 仕事と育児の両立に備え

仕事と子育ての両立って、本当にできるの？ そんな疑問にたえようと、学生を子どもがいる家庭に派遣し、子育てを体験してもらおう取り組みがある。

### 首都圏30大学100人が体験

早稲田大政治経済学部4年の丸山詩乃さん(21)は今年3月から3カ月間、「インターン」として子育てを学んだ。東京都世田谷区の小林俊明さん(38)、佳奈さん(40)宅に通い、長女凜依奈ちゃん(2)の世話をした。橋渡しをしたのは株式会社「スリール」(東京都新宿区)。社長の堀江敦子さん(27)が2年前に始めた。出産を機に離職する女性が



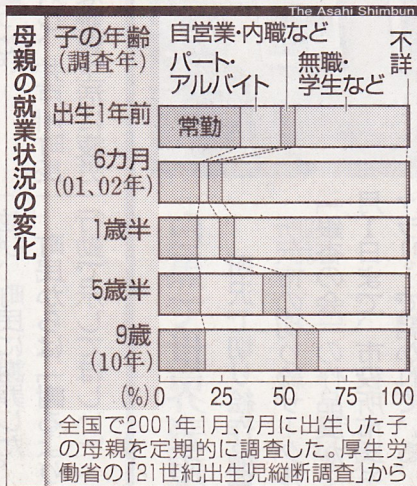
丸山詩乃さん(左)のひざの上で遊ぶ凜依奈ちゃんと、母親の佳奈さん(右)

多い現実。グラフを踏まえ、子育ての実情を学生のうちに見て、将来に役立ててもらおう狙いだ。これまでに首都圏の大学約30校の約100人が体験。みな個人参加で9割は女子だ。学生たちは、子どもの世話の研修を約36時間受け、原則2人1組で子どものいる家庭へ。親の帰宅までの間、保育園へのお迎えや食事の支度、お風呂や寝かし

つけをする。月6回3カ月、同じ家庭に通う。無給だが交通費はスリールから支給される。

受け入れ家庭には約40世帯が登録。現在は、うち8家庭に学生が通う。受け入れた家庭は、月3万円の利用料を同社に支払う。

丸山さんがインターンに参加したのは就職活動中、働く女性の姿を垣間見たのがきっかけ。将来は子育てしながら仕事をしたいが、活躍する女性は休日も返上して仕事に打ち込む人が多く、両立できるか不安になった。そんな時、先輩からインターンを紹介された。子育ては想像以上に大変



だった。駄々をこねて道路に寝転がる凜依奈ちゃんを、無理やり抱き上げて帰ったこともあった。お気に入りの絵本を1時間、繰り返して読み、眠りにつくの辛抱強く待った。

俊明さんは商社勤務。佳奈さんは「みなみ佳奈」の名で、個人向けに服を選ぶスタイリストだ。凜依奈ちゃんが風邪を引いたときは「綱渡り」。佳奈さんが出勤前、病児保育施設数カ所に電話をかけて預かり先を確保し、仕事が終わると走って迎えに行く。

それでも丸山さんが希望を失わなかったのは、「仕事の話をするときも、凜依奈ちゃんといるときも、佳奈さんが楽しそうだった」から。家事を分担する俊明さんの姿も心に残った。「専業主婦の母に育てられ、子育ては母親がするものと思っていた。夫婦で協力し、人の助けを借りる子育てもありなんだと思うと、不安が一つ減りました」

「ワーク・ライフバランス」社長の小室淑恵さん(37)は「仕事と子育ての両立は、世間に変な面ばかりが伝わっている。学生が実際の家庭を見て母親の声を聞き、良い面と悪い面、両方の情報を得られるのは良いことだ」と話す。

### 各地で交流授業

赤ちゃんとのふれあいを学びに導入する試みは、各地で行われている。神戸市のKTC中央高等学院神戸キャンパスは、赤ちゃんと交流する授業「赤ちゃん先生」を開く。NPO「ママの働き方応援隊」が協力。山崎尚宏キャンパス長(35)は「自分がどう育てられてきたかを考え、自身を見つめるきっかけになれば」。

さいたま市は今春から公立小中学校で、赤ちゃんと遊び、母親に育児の話聞く授業を始めた。鳥取県の公立小中学校は命の大切さを学んだ後、赤ちゃんとふれあう「赤ちゃん登校日」を設けている。(畑山敦子)